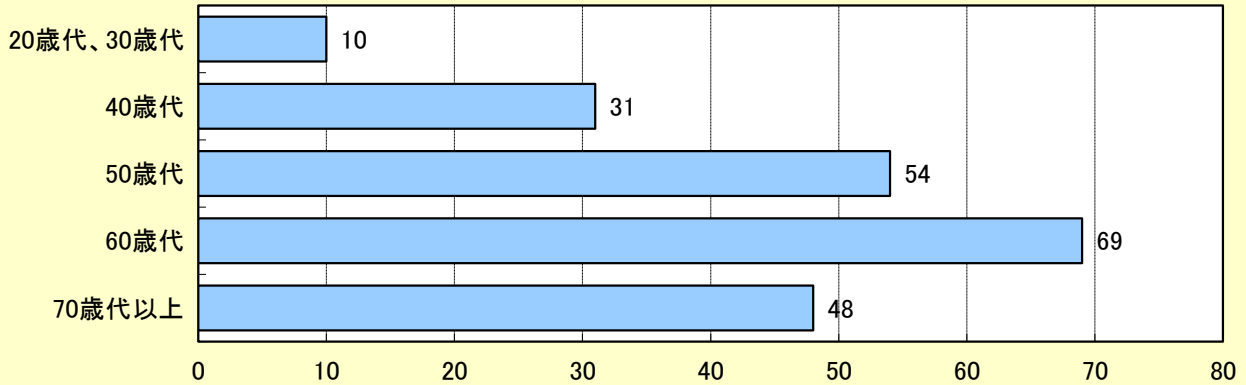


# 中小企業経営者と「人生100年時代」(年代別の集計)

2018年7月～9月期 景気動向 特別調査 調査先215先

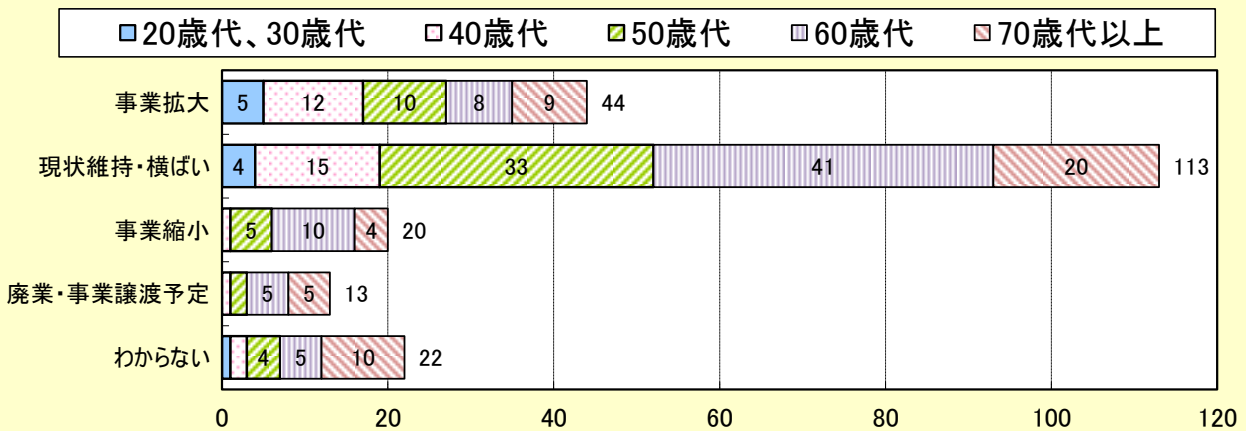
## 基本情報 調査先の年齢階層別先数

調査先を年齢階層別に見ると、「60歳代(33%)」が最も多く、次いで「50歳代(25%)」、「70歳代以上(23%)」となっています。

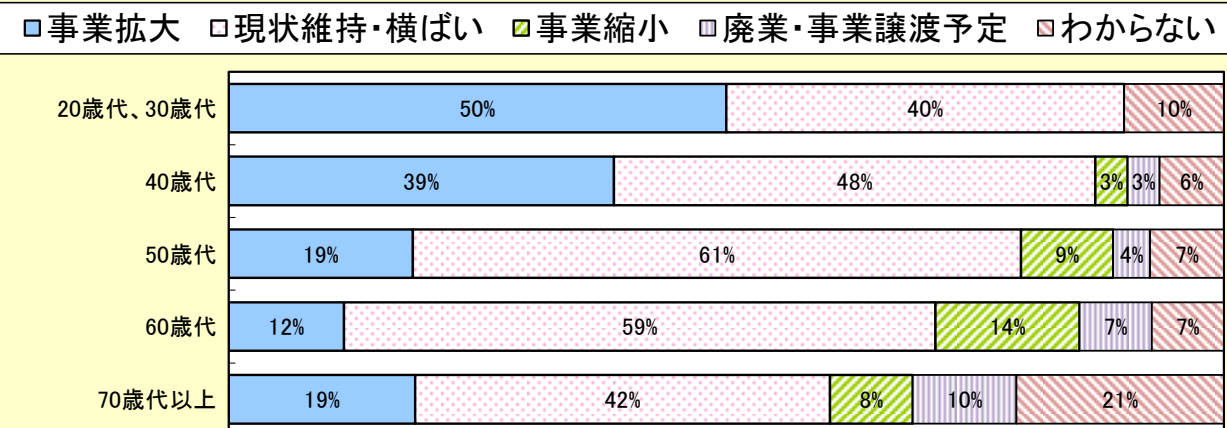


**問1** 社長(代表者)は、今後の10年先の自社の経営について、どのように展望していらっしゃいますか。1～5の中からお答えください。併せて、現在の社長(代表者)の年齢階層を下記の6～0の中から1つ選んでお答えください。

**コメント** 10年先の自社の経営については、「現状維持・横ばい」が最も多く、次いで「事業拡大」となっています。

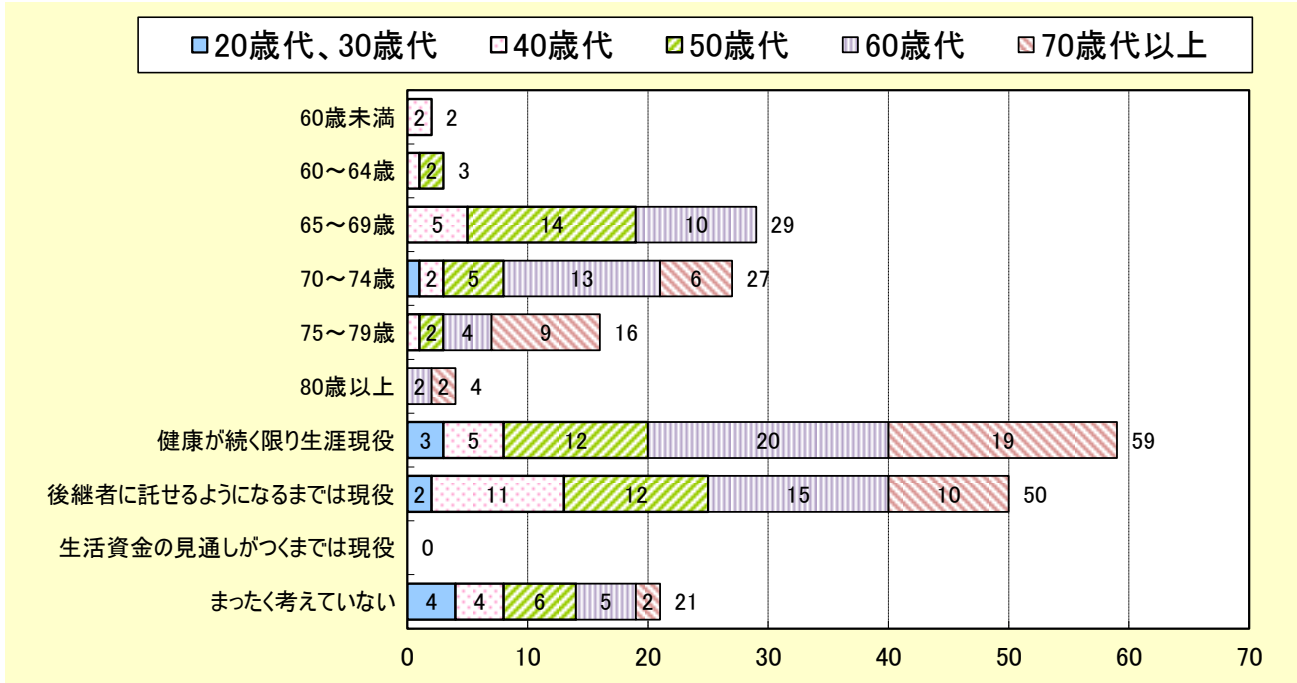


**コメント** 年代が低くなるにつれ、「事業拡大」の割合が大きくなり、年代が高くなるにつれ、「事業縮小」や「廃業・事業譲渡予定」の割合が大きくなっています。

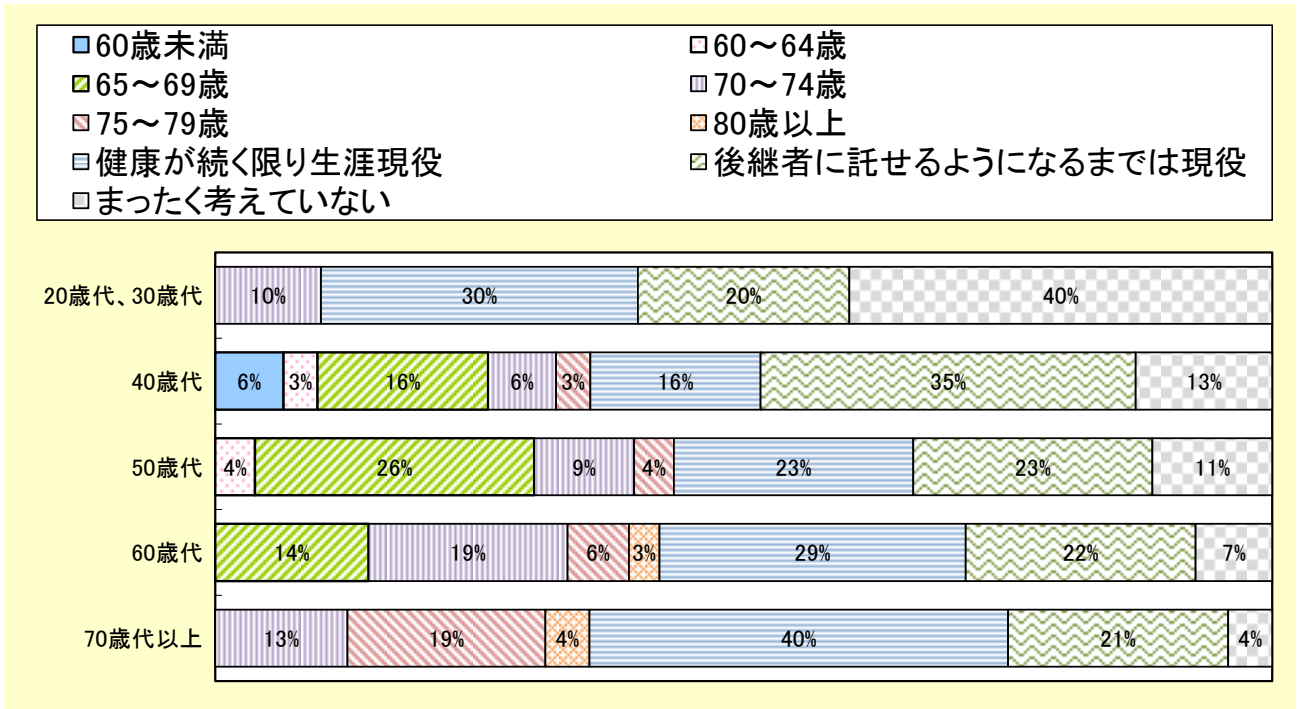


問2 「人生100年時代」という言葉が生まれるなど、健康寿命の長期化に社会的関心が高まる中で、今後、経営者が現役で活躍する年齢は高まっていくものと考えられます。そのような中、社長(代表者)は、経営者としていつ頃まで現役を続けたいとお考えですか。具体的な年齢の目途がある方は1～6の中から、そうでない方は7～0の中から、最も当てはまるものを1つ選んでお答えください。

コメント 現役を続けたい時期として、具体的な年齢の目途がある方の中では「65～69歳」が最も多く、そうでない方の中では「健康が続く限り生涯現役」が最も多くなっています。

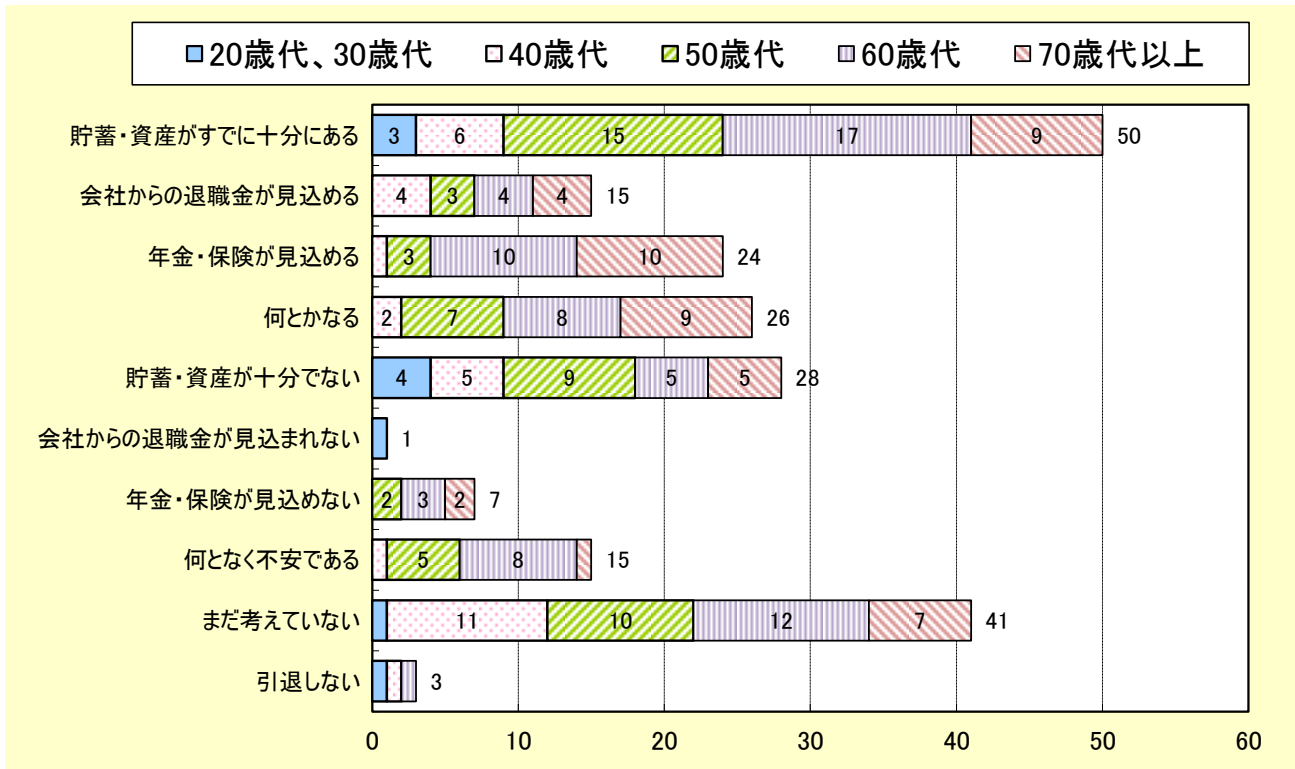


コメント 20歳代、30歳代では、「まったく考えていない」の割合が最も大きく、年代が高くなるにつれ、「健康が続く限り生涯現役」の割合が大きくなっています。また、40歳代では「後継者に託せるようになるまでは現役」の割合が最も大きいことも特徴的です。



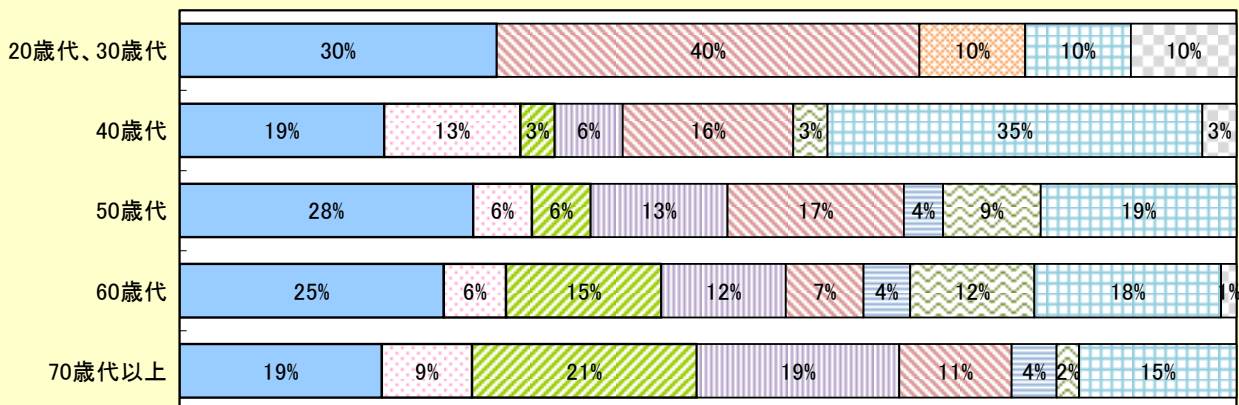
問3 社長(代表者)は、経営者を引退した後の生活資金についてどのようにお考えですか。最も当てはまるものを1つ選んでお答えください。

コメント 引退した後の生活資金について、「貯蓄・資産がすでに十分にある」が最も多いものの、「貯蓄・資産が十分でない」や「まだ考えていない」も多くなっています。



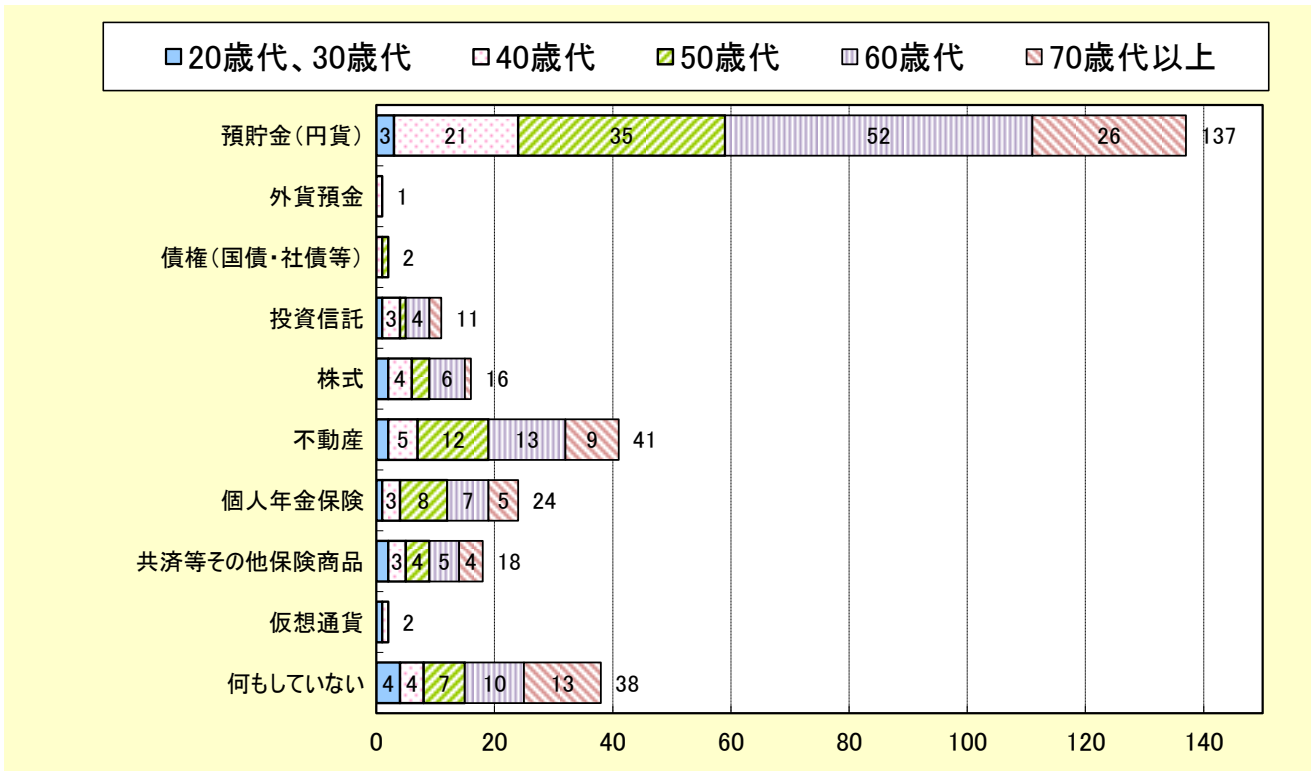
コメント 20歳代、30歳代では「貯蓄・資産が十分でない」の割合が最も大きく、年代が高くなるにつれ「年金・保険が見込める」や「何とかなる」の割合が大きくなっています。

- 貯蓄・資産がすでに十分にある
- 年金・保険が見込める
- 貯蓄・資産が十分でない
- 年金・保険が見込めない
- まだ考えていない
- 会社からの退職金が見込める
- 何とかなる
- 会社からの退職金が見込まれない
- 何となく不安である
- 引退しない

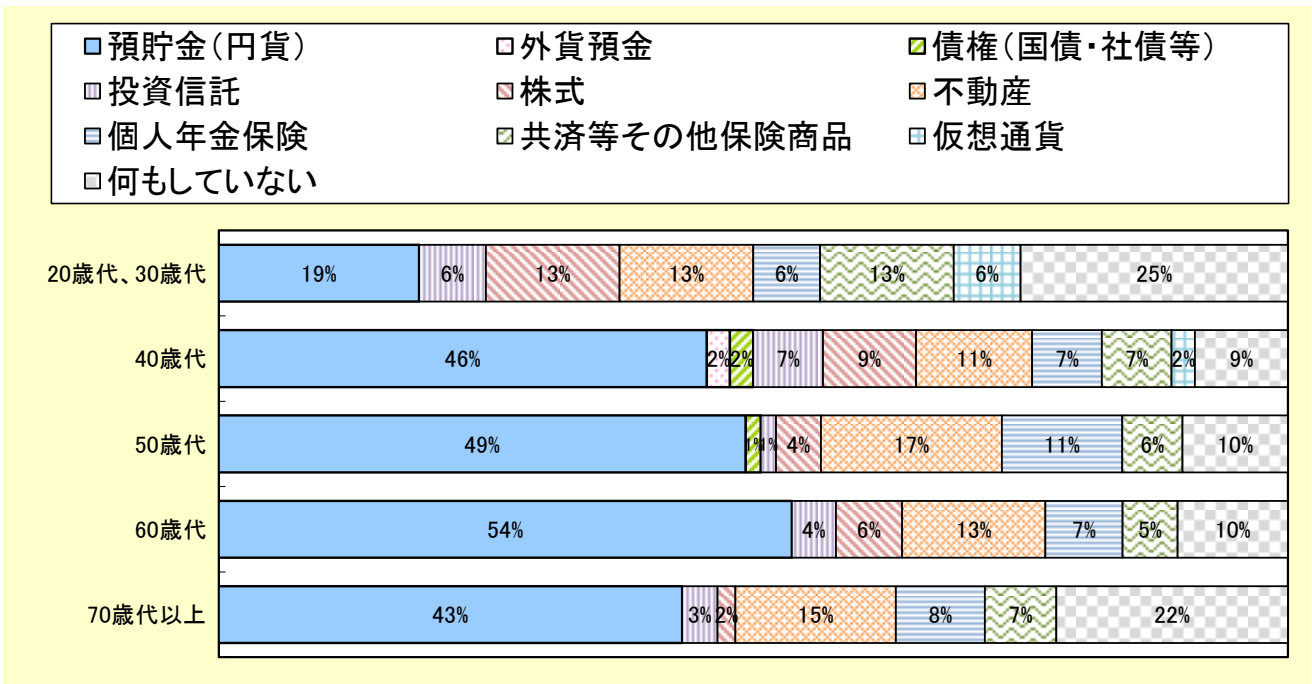


問4 「人生100年時代」を見据えて、社長(代表者)は、個人としてどのような資産管理・運用をしていらっしゃいますか。下記の1~0の中から主なものについて3つ以内で選んでお答えください。

コメント 資産管理・運用について、「預貯金(円貨)」が最も多く、次いで「不動産」、「何もしていない」となっています。

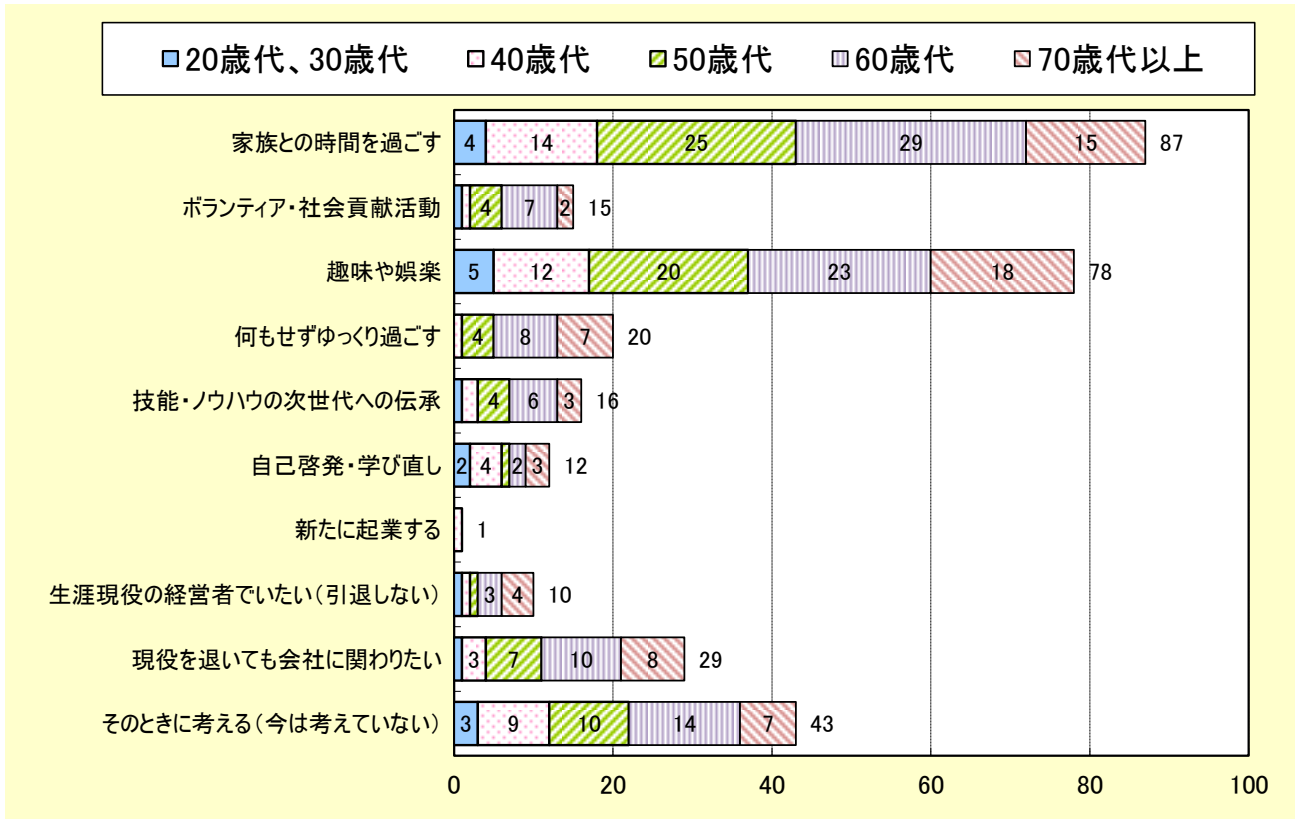


コメント 40歳代以上では「預貯金(円貨)」の割合が最も大きくなっています。また、年代が低くなるにつれ、「投資信託」や「株式」等の運用にかかる割合が大きくなっています。



**問5** 「人生100年時代」を見据えて、社長(代表者)は、現役を退いた後の生活イメージについて、描いているものはありますか。下記の1~0の中から3つ以内で選んでお答えください。

**コメント** 現役を退いた後の生活イメージについて、「家族との時間を過ごす」が最も多く、次いで「趣味や娯楽」、「そのときに考える(今は考えていない)」となっています。



**コメント** 年代が低くなるにつれ、「自己啓発・学び直し」の割合が大きくなり、年代が高くなるにつれ、「何もせずゆっくり過ごす」や「現役を退いても会社に関わりたい」の割合が大きくなっています。

